



れんけいと支援



富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112 (代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp> / 発行日 2011年12月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

「最新画像診断装置のご紹介」



放射線診断科 達 宏樹

平素は当院放射線診断科に多数の患者さんをご紹介いただき誠にありがとうございます。

先日、当院放射線部の画像診断装置が2台更新されましたのでこの場をお借りして紹介させていただきます。

1台目は2011年9月から稼動しているマルチスライスCTシステム Aquilion PRIME(東芝メディカルシステムズ製)です。この装置は160スライス高速ヘリカルスキャンを行うことができます。従来の16列CTと比較して大幅に性能が向上しており、広範囲を短時間で撮影することや、より空間分解能の高い画像を得ることができます。これにより、じっとしていることが難しい小児や息止め困難な高齢者、重症患者でもこれまでより高画質で撮影することが可能です。また、脳血管や心臓血管の検査でもこれまでより詳細な画像を得ることができます。脳血管や心臓血管の検査が必要な患者さんがいらっしゃいましたら当院脳外科、循環器内科にご紹介いただければ幸いです。

2台目は10月から稼動しているX線アンギオグラフィシステム INFX-8000V(東芝メディカルシステムズ製)です。この装置は平面検出器を搭載したパイプラインシステムであり、脳血管領域、腹部および四肢血管領域などの血管造影やIVRに使用しています。この装置は従来のアンギオシステムと比較し、高画質、広視野、低被曝という利点があります。さらに、検出器を回転させることでいわゆるCTライクイメージを撮影することができます。これまでは肝細胞癌の治療などの際、血管造影室からCT室へ移動してCTAPやCTHAなどの血管造影下CTを撮影していました。この装置ではCT室へ移動せずにCTライクイメージを得られるため、検査時間の短縮や患者の身体的負担を軽減することができます。また薬液分布の確認なども行いやすいため、より安全かつ正確な治療を行うことが可能になりました。

これらの最新機器を有効活用し、地域の先生方や患者さんからよりいっそう信頼していただける画像診断・IVRを行っていただけるようスタッフ一同努力してまいります。今後ともよろしくご依頼申し上げます。



図1. 160スライスCTシステムで撮影した冠動脈3D画像(正常例)



図2. X線アンギオグラフィシステムで撮影した経動脈性門脈造影下CTライクイメージ(肝硬変例)

Contents

最新画像診断装置のご紹介	1
研修・講演・勉強会のご案内	2.3
12月の地域連携・開放型病床症例検討会報告	3
診療所・病院・施設訪問	4
平成23年度地域医療連携 担当者交流会講演会を開催して	5
ふれあい地域医療センターからのお知らせ	5
第6回市民公開講座	6
研修医のひとりごと	7
第4回 有害事象モニタリングセミナー開催報告	7
医師不在のお知らせ	7
病棟、手術室、HCU・ICUの紹介	8
編集後記	8

1. 地域連携・開放型病床症例検討会



1月

日時：1月10日(火) 19:00~20:15 場所：当院3階 講堂

ミニレクチャー：「肺癌における開胸時胸腔内洗浄細胞診について」

呼吸器・血管外科 瀬川 正孝

肺癌における悪性胸水や胸膜播種は、進行肺癌において認められ、病期・治療方針・予後を決める上で重要な病態である。肺癌取り扱い規約の第6版では、両者はともにT4であり、進行度はB期であったが、新しい第7版では、M1aに格上げされ、進行度は期となった。

一方で、胸水貯留も胸膜播種も認められないにもかかわらず、生食による胸腔内洗浄液の細胞診(胸腔内洗浄細胞診：PLC)にて癌細胞が検出されるPLC陽性という病態がある。そしてPLC陽性例の予後は不良であるという事実は以前から認識されている。しかし、PLC陽性の原因や臨床的意義はまだ明確にされていないため、第6版までは「PLCが陽

性であっても、このことだけではT4とはならない」と記載され、また第7版においても、PLC陽性例には「残存病変あり=R1」と記載することになったが、相変わらず「PLCが陽性であってもM1aとはしない」と明記され、PLC陽性は進行度には反映されていない。つまりPLC陽性は、予後不良因子になっている可能性が高いにもかかわらず、陽性例をどの病期に位置づけ、陽性例に対していかなる治療戦略を立てるべきかなどが明確になっていないのである。

今回は当科の症例を元にPLC陽性例の臨床的特徴を紹介しようと思う。

症例検討

1)「特発性肺胞蛋白症の1例」

紹介医：堀川内科クリニック 堀 亨先生 呼吸器内科 山本 宏樹

2)「冠動脈MDCTが狭心症の診断に有益であった定期血液透析を受けている慢性腎不全の1例」

紹介医：北川内科クリニック 北川 鉄人先生 循環器内科 村本真一郎

2月

日時：2月14日(火) 19:00~20:15 場所：当院3階 講堂

ミニレクチャー：「当科における頸椎・頸髄疾患に対する治療戦略」

脳神経外科 宮森 正郎

2. 内科CPC



日時：1月10日(火) 17:30~

場所：医局カンファレンス室

3. 糖尿病研究会定例学習会



日時：1月5日(木) 17:30~18:30

場所：集団指導室

テーマ「糖尿病と歯周病について」

講師 歯科口腔外科医師 高橋 勝雄

4. 院内医療機器研修会



日時：1月6日(金) 17:45~18:30

場所：集団指導室

テーマ「人工呼吸器のモードと設定について」

講師 院内臨床工学科技師

5. 緩和医療委員会学習会



日時：1月10日(火) 18:00~19:00

場所：集団指導室

テーマ「症状緩和(呼吸困難・呼吸不全)補助呼吸について」

講師 呼吸器看護エキスパートナース

赤田 文代

理学療法士

竹林由希世

6. 富山市民病院 学習会



「フットケア」

日時：1月23日(月) 18:00~19:00

場所：集団指導室について

テーマ「フットケアについて」

講師 糖尿病看護エキスパートナース

腎不全看護エキスパートナース

7. 乳腺エコー学習会 (術後症例検討)

日時：1月24日(火) 16:00~

場所：病理検査室

対象：医師、臨床検査技師、放射線技師、他

- *前月手術された症例をエコー中心に検討します。
- *日時が変更になる場合がありますので、参加希望の方は事前にご連絡ください。

8. 褥瘡対策学習会

日時：1月27日(金) 17:45~

場所：集団指導室

○テーマ 「褥瘡予防のためのリハビリテーション」

○講師 理学療法士 亀山 拓良

9. NST学習会

日時：1月30日(月) 18:00~19:00

場所：講堂

○テーマ 「慢性閉塞性肺疾患について」

○講師 呼吸器内科医師 山本 宏樹

10. 看護研修 《衛星研修S-QUE Eナース》

日時：1月6日(金) 17:40~18:50

場所：講堂

○テーマ 「事例から学ぶ(インシデント・アクシデント)安全管理ケア(生存例・死亡例)」

日時：1月18日(水) 17:40~18:50

場所：講堂

○テーマ 「看護記録」

研修の横に対象となる職種マークをつけました。お気軽にお越し下さい。



病院ボランティア 篠崎 佳子

《連載企画》 診療所・病院・施設訪問 81 もりクリニック

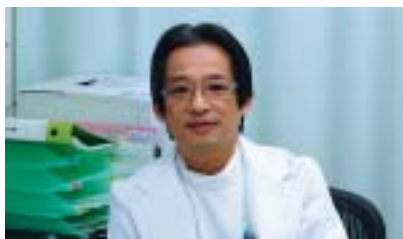
今回は「もりクリニック」を訪問させていただきました。

名 称	医療法人社団 双星会 もりクリニック
住 所	富山県富山市天正寺1076番
医 師	森 和弘 先生
標 榜 科	内科・消化器内科・外科・肛門外科
診 察 日・時 間	月・火・金・土・日曜日の午前 8:30~12:00
	月・火・金曜日の午後 14:00~18:00
	土・日曜日の午後 14:00~17:00
	火曜日の午後は原則として女性のみ診察
	水曜・木曜・祝祭日 休診 祝祭日が土・日曜日と重なる場合は開院します。
施 設 区 分	無床診療所

訪 問 記



もりクリニック前景



森院長先生



森先生とスタッフの皆さん

雪化粧した立山が美しく映え、寒さも一段と厳しく感じるようになった12月13日（火）富山市天正寺で今年5月開業された“もりクリニック”を訪問させていただきました。

森 和弘院長先生のご出身は金沢市、ご専門は消化器外科とお聞きしました。長く富山県内の病院で勤務され「患者さんの体にやさしい医療（低侵襲の医療）を提供したいという思いが勤務医時代からあり、北陸で日帰り手術をすすめていきたい」とお話をいただきました。日帰り手術はそけいヘルニア、痔、下肢静脈瘤を対象とされ、局所麻酔＋静脈麻酔で1日2人～3人行なえるとのこと。手術後、患者さんは落ち着いた雰囲気のリカバリールームでしばらく休んでいただき帰宅されるとのこと。地域医療連携で期待することは、「手術を行なっている限り、突発的なことが発生する可能性は避けられない。その時の救急の受入れなどを含め医療連携をお願いしたい」とのことでした。

もりクリニックのスタッフの方は森先生はじめ看護師さん3名、事務の方2名の6名で月に1～2回勉強会を行いスキルアップしているとのこと。また、毎週火曜日の午後は女性の方のみの診察となっており、患者さんへの細やかな優しさや配慮は先生はじめスタッフのみなさんの明るくあたたかい笑顔からも伝わってきました。

白の壁に木のナチュラルな感じが優しい外観のもりクリニックは、流杉インターチェンジからわずか5分と県内外からの交通の利便も大変よい場所に建っています。

エントランスからクリニック内へは履き替え無しでそのまま入ることができ、待合室内は白と茶色に統一され、壁に飾ってある“CODON”のアートがとても印象的です。見る人に何かを想像してもらう造形とのこと。

また、先生の奥様がデザインされたもりクリニックのロゴマークは、緑を基調に「森と日帰り手術を行っている痔、そけいヘルニア、下肢静脈瘤をイメージしている」と説明いただきました。

診察の合間の貴重なお時間に訪問させていただきましたことに感謝申し上げます。

そしてこれからも末長い医療連携をお願いし、帰路につきました。



平成23年度 地域医療連携担当者交流会・講演会を開催して

11月30日（水）、平成23年度地域医療連携担当者交流会を開催いたしました。

院外より医師、医療ソーシャルワーカー、看護師、介護専門支援員合わせて33名、院内より退院支援担当の看護師、医療ソーシャルワーカー21名、計54名の参加がありました。参加者が7つのグループに分かれ「お互いの職種を理解することで深まる思いやりの連携」をテーマに日ごろの連携で苦労していることや工夫していることなど、担当者交流会の後に講演をいただく大塚 光宏氏にもグループワークの中に入ってもらい、活発な意見交換がおこなわれました。



グループワークのあと、それぞれのグループからの発表では、「意見交換することでお互いの苦労していることがわかった」「介護保険制度や訪問看護で出来ることなどについて知識不足であり、知っていただく為にどのように広報していけばよいか」「日頃からコミュニケーションを多くとり連携をとるようにしている」などの意見がありました。

大塚氏からは、“患者さん一人ひとりがその人に合った医療サービスを受けるためには、たくさんの方の情報を共有すること。また、連携するお互いの思いを知ることは相手のことが理解できより連携が深まる。そしてこのような機会を設け顔の見える連携をすることが思いやりの連携につながるのではないかと”の講評をいただきました。

担当者交流会の後、引き続き「地域医療連携の現状と今後の展望」と題して、東京歯科大学市川総合病院 医療福祉室係長 大塚 光宏氏にご講演いただきました。院内外からさらに医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、介護支援専門員等の多数の参加がありました。

地域連携とは、地域の医療・介護サービス提供者が顔の見えるネットワークを構築することが重要であり、患者さんがその地域で生活する上であらゆる社会資源が連続して協奏（連携）することで安心して元気に生活できる地域（まち）を共創していくことが大切だと話された。住みよい街づくりの大切さについて写真やグラフなどで多くを示していただき、大変興味深い内容でした。



また「院内連携なくして地域連携なし」と言われるほど院内の連携は最も大切であると話され、お互いの職員のことを知り理解

ふれあい地域医療センターからのお知らせ

先月号にも掲載いたしましたが、年末年始のふれあい地域医療センターについては以下の通りです。診察や検査の予約受付に対応いたしますのでよろしくお願いたします。

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| ・ 12月26日(月) | 通常通り(8時30分~19時) |
| ・ 12月27日(火) | 通常通り(8時30分~19時) |
| ・ 12月28日(水) | 通常通り(8時30分~19時) |
| ・ 12月29日(木)~1月3日(火) | 休み |
| ・ 1月4日(水) | 通常通り(8時30分~19時) |

なお、救急患者さんに関しては、救急センターへご連絡ください。



第6回市民公開講座

「がんについて学ぶ会」を開催いたしました



(期間10月21日～11月18日)

講義は、第5回(8月号のご案内)と同じ内容でした。今回は、参加者と講師の感想から、講座の雰囲気をお伝えしたいと思います。

日	テーマ	講師
10/21	がんの予防と胃がん・大腸がんの治療	院長
10/28	乳がんのおはなし	外科医
11/2	肺がんのおはなし～最新の治療について～	呼吸器内科医
11/11	抗がん剤治療と副作用対策	薬剤師
11/18	泌尿器のがんのおはなし～早期に発見するには～	泌尿器科医

参加された方の感想

Aさん:「最近ふさぎこんでいた父でしたが、今日の講義を聞いて病気に対して少し前向きになり元気になった」

Bさん:「私のような一般のものは、抗がん剤という副作用が強いイメージを持っている。大腸がんの薬の開発がすすんでいることも聞いて、生きる希望を持てた」



10/21 泉 良平院長



10/28 吉川朱実医師



11/2 石浦嘉久医師

講師側の感想

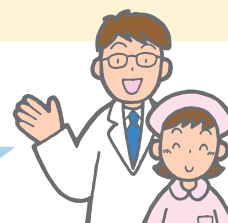
講師A:「真剣なまなざしの聴衆の方々ばかりで、話す方としても普段より力が入ってしまいました。」

講師B:「患者様より感謝のお言葉を頂き、少しでも力になることができた実感することができました。」

講師C:「ご参加いただいた方々のひたむきなお姿に感銘を受けました。これからは私にできることを精一杯行いたいと考えております。」

講師D:「少人数で和やかな雰囲気でした。話に真剣にうなずいて聞いていらっしゃる方や質問される方を見て、講師をしてよかった」

このように、参加者のみなさんからは「参加して良かった」という声をたくさん伺い、講師は熱意をもって講義をしています。これからも1年に2回のペースで続けていきたいと思っています。



研修医の ひとりごと

研修医 森尻 昌人



はじめまして、研修医の森尻です。富山市民病院の研修2年目です。今年も、もう12月になり、あと4ヶ月で研修修了となります。忘年会が近づき研修室は騒がしくなってきました。時間が立つのは早いですね。富山市民病院には祖父、父が働いていたり、建物の隣で育ったりしたこともあり、家族揃って関係があり、とても大切に大好きな病院です。来年度は富山大学で働くことになりましたが、いつの日か立派な医者になり富山市民病院に戻ってきたいです。

さて、私の趣味について少しお話ししたいと思います。先月バイクを買いました。寒いので乗るためではなく、いじるためのハーレーです。エンジンを動かさないのでガソリンは入りません。免許も入りません。消音器も入りません。冬の間はランニングコストはゼロ!? 究極のエコバイクです。絵画や銅像買うより安いかもしれませんが、手が真っ黒。医療関係者には叶わない趣味だったのかもしれませんが、諦めて業者にカスタムしてもらって春になったら乗ってみるかな?

そういえば婚活を試してみました。精神的に大変ですね、へこたれました。あまり気にせず要領良く頑張ろうと思います。あと僅かですがよろしくお願いします。



第4回 有害事象モニタリングセミナー開催報告

11月29日、地域の薬局薬剤師と病院の薬剤師との連携を図る目的で、第4回有害事象モニタリングセミナーを開催しました。今回は、院外の調剤薬局から16名の薬剤師に参加をいただきました。

まず始めに、院外の薬局における後発医薬品への変更事例について情報提供と意見交換を行いました。次に、がん薬物療法認定薬剤師の廣上薬剤師から「内服抗がん剤治療における新たな取り組み」と題し、外来でがんの治療を行っている患者さんの服薬指導や、内服抗がん剤を用いた当院のレジメン(薬物治療のスケジュール)についての解説説明を行いました。続いて、緩和ケア科の板野医師から「がん患者に対する治療薬の使い方と有害事象 ~がん性疼痛の緩和~」と題し、がんの痛みを和らげるための鎮痛薬・医療用麻薬の使用や、患者さんとその家族への接し方について講演をいただきました。

がん治療や緩和医療については、地域の薬局との連携が大変重要となりますが、一方で十分な情報提供を行いにくい環境にあるのも事実です。患者さんがより安全に、安心して治療を受けられるよう、これからも相互の理解を深めるための取り組みを続けていきたいと考えています。



医師不在のお知らせ

外来担当日の休診のみ掲載

1月分

科名	不在日	医師名	科名	不在日	医師名
内科	27日	寺崎	外科・乳腺外科整	12日・26日・30日	泉
	18日	清水		18日	福島
	10日	森永		6日	野島
	24日	高櫻	整形外科・関節再建外科	6日	澤口
泌尿器科	27日	元井	眼科	27日	山田

その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。

病棟、手術室、HCU・ICU

の紹介



今月は 東病棟5階

東病棟5階は、脳神経外科と、神経内科の病棟です。

病床数は44床でスタッフは脳神経外科医師4名、神経内科医師2名、看護師25名、退院調整看護師1名、看護補助者4名の36名です。脳・神経疾患を主とした患者さんのケアを行っています。患者さんの多くは、四肢麻痺、意識障害、構音障害、などの後遺症によりQOLを低下させている患者さんが多く、少しでもQOLを上げようと、医師、看護師、リハビリスタッフ、栄養師、薬剤師など、コメディカルと協力しながら患者さんのケアを実施し、できるだけ、口から栄養を摂取されることを願って、毎日、摂食嚥下療法を実施しています。また歯科医師に口腔ラウンドをしてもらいながら、肺炎予防や経口摂取の促進などに努力し、少しでも患者さんが元の状態に近づけるようケアを行っています。



また最近が高齢者の患者さんも多く、脳卒中の患者さんが増加し、脳卒中地域連携パスを使用しています。回復リハビリ期の病院に転院後、自宅退院された患者さん達も、元気になった姿を、病棟に見せに来て下さったりして、スタッフの励みにもなっています。

患者さんが満足した入院生活を過ごしていただけるようひとりひとりの職員が接遇に心がけ、今後も地域の皆様に安心して安全な医療が提供できるよう努めていきたいと思っています。



編集後記

看護実習生のみなさんに、「“がん”からイメージすること」を聞いてみたところ、ほとんどが「死」「怖い」「苦しい」「痛い」でした。『がん＝死』というイメージは多くの方が持っていらっしゃるようです。

しかし、医療技術の発達と薬の開発により『がん＝死』ではなく、今では『がん＝共存』（早期がんであれば治癒）の時代になりました。相談室を訪れる患者さんのなかには、がんの治療を受けながらも、「今日は受診日で寄ってみた」という笑顔に、私の方が逆に元気をいただくことがたくさんあります。

「がん・なんでも相談室」を開設してから、2年が経過しました。これからも、正しい知識をもってがんに向き合えるように市民公開講座「がんについて学ぶ会」などを通して、情報提供を行ない、がんの早期発見・早期治療を市民の皆さんに呼び掛けていきたいと思っています。

がん・なんでも相談室 島田 真理子



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。
送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 FAX 076 (422) 1154

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/>
がん・なんでも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp